

科目名	授業時数	教科書名	副教材名
中学3年 音楽	1	中学生の音楽 2・3下 中学器楽(教育芸術社)	コーラス・フェスティバル (正進社)

1. 授業の目標

- ・1,2年履修内容に準じて、さらに「音楽」という分野を多角的に学習します。
- ・歌唱や器楽、鑑賞を通して「芸術としての音楽」を学習します。
- ・歌唱や器楽などの自己表現力の育成や、音楽鑑賞などによってその美しさを感じ、感受性を豊かにするなど音楽を通して芸術文化を総合的に学習します。
- ・国際社会に通じる、日本と世界の音楽を学習します。
- ・各々の生徒に対応した実技テストや鑑賞指導により、その生徒が持つ感受性や表現力の可能性を引出し音楽の持つ美しさやその多様性を感じ得ることを目標とします。

2. 授業のすすめ方

- ・一斉指導, グループ指導, 個別指導, 自主的学習を組み合わせた授業を行います。
- ・ICT導入に際しては, iPadを適宜利用して授業を行います。

3. 学習上の留意点

- ・授業中, 鑑賞中, 演奏中において聴くことに集中する。
- ・自ら音楽を実践(演奏)できること。
- ・積極的に授業に参加すること。
- ・授業には必ず教科書, ファイル, 筆記用具, iPadを持って来ること。
- ・遅刻はしない。
- ・音楽室の備品を大切に扱う。

4. 副教材・参考書

- ・単元に合わせたプリントを配付, 配信します。

5. 評価方法

実技テスト, 器楽テスト, 鑑賞感想文, 楽典テスト, 授業態度。

- ①実技テスト(歌唱・器楽)での積極的な態度と, 音楽的であり創意工夫された表現力を発揮できたか。
- ②鑑賞においては, その楽曲の持つ音楽的な工夫や, それにちなんだ歴史的な背景に興味を持ち感想を書くことができたか(それに準ずるワークシート等記入)。
- ③真摯な授業態度であるか(話を聞く姿勢, 提出物期限の厳守, 忘れ物をしない, 遅刻をしない等)。

上記3点の評価の合計点が成績となります。

(各学期100点満点で採点し, 実技テスト点60点+平常点40点とします)

年度末に各学期の評価から学年成績(評定)を5段階評定で算出する。その他に、「知識・技能」「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つによる観点別評価をそれぞれA, B, Cの3段階により評価します。

6. 定期考査

実施しません。

指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標		
一 学 期	四 月	オリエンテーション	1. 歌唱実技テスト	○歌唱・合唱 ・音程が正確に取れる (記譜通りに歌える) ・歌詞を正確に歌える (外国語ならば発音が正確である) ・曲想に合った歌唱表現ができる (強弱を含む) ・きれいな発声法で歌える ・大きな声で歌える ・自分のパート(声部)を明確に歌え、役割を理解できる ・自主的・主体的に合唱に参加し、音楽表現を高めることができる		
		1. 歌唱・合唱曲 ○「花」 ・作詞者、作曲者について。 ・歌詞の内容と、楽曲の形式。 ・日本語の歌唱表現と発声法。				
		○「帰れソレントへ」 ・イタリア語の発音について。 ・ベル・カント唱法。				
		○「旅立ちの日に」 (クラス合唱曲も含む・曲目未定) ・曲について。 ・詩の内容と歌唱表現 ・混声三部合唱。 ・パートの役割。				
	五月					
	六月					
	七月	2. 鑑賞 ○「ブルダバ(モルダウ)」(スメタナ作曲) ・作曲者について。 ・曲想と音楽の関わりについて。 ・当時の時代背景について。 ・オーケストラについて ・感想文。			2. 感想文の提出	○鑑賞 ・楽曲形式などに関心をもち鑑賞できる ・楽器の音色の違いが聴取できる ・楽曲に関する作品背景や歴史的・民族的・社会的意味について関心を持つことができる
二 学 期	九月	○「魔法使いの弟子」(デュカス作曲)(予定) ・交響詩と描写音楽について。 ・感想文。	3. リズム実技テスト	○器楽 ・記譜通りに演奏することができる ・曲想に合った表現ができる ・形式を理解して弾くことができる		
	十月	○能「敦盛」(予定) ・日本の伝統芸能について。 ・能の歴史と特徴について。 ・物語の内容について。 ・感想文。				
	十一月	3. 器楽(予定) ○リズムアンサンブル ・楽典。 ・実技テスト。			4. 楽典確認テスト	○楽典 ・作品の中の記譜・音楽用語を正しく理解し、鑑賞や実技に生かすことができる。
	十二月					
三 学 期	一月					
	二月					
	三月					

※ シラバスの内容(時間や事項)については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。